

Kepolisemian Verba *Tsukeru*: Kajian Linguistik Kognitif

Prisyanti Suciaty^{1*}, Dedi Sutedi², Herniwati³

¹Universitas Negeri Padang, Indonesia

Jl. Prof. Hamka, Air Tawar, 25131, Padang, Indonesia

^{2,3}Departemen Pendidikan Bahasa Jepang, Universitas Pendidikan Indonesia

Jl. Dr. Setiabudhi No. 229, Bandung, Indonesia

*e-mail : prisyanti.suciaty@gmail.com

phone: +62-852-6444-6550

First received: 27 April 2017

Final proof received: 23 June 2017

Abstrak

Polisemi merupakan salah satu tema yang dibahas ketika berbicara mengenai makna sebuah kata. Kata yang berpolisemi adalah kata yang memiliki makna lebih dari satu. Penelitian ini meneliti makna verba *tsukeru* yang berpolisemi. Verba *tsukeru* dianalisis dengan menggunakan kajian linguistik kognitif. Tujuan dari penelitian ini untuk mendeskripsikan makna dasar, mengklasifikasikan makna perluasan, serta mendeskripsikan hubungan antara makna dasar dan makna perluasan dari verba *tsukeru*. Metode yang dilakukan dalam penelitian ini adalah metode deskriptif. Data yang digunakan yaitu *jitsurei* yang diperoleh dari korpus BCCWJ (*Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese*) yang bersumber dari dokumen, majalah, koran, buku pelajarann, buletin, dan yahoo yang terbit antara tahun 2000-2008. Selanjutnya dicatat dalam bentuk kartu data. Kemudian dilanjutkan dengan mengklasifikasikan data ke dalam makna dasar dan makna perluasan, dan menganalisis hubungan makna dasar dan makna perluasan menggunakan kajian linguistik kognitif yakni menurut majas metafora, metonimi, dan sinekdoke. Hasil penelitian yang ditemukan adalah verba *tsukeru* memiliki makna dasar *memasang*. Kemudian ditemukan 15 makna perluasan yaitu *memberi, menempatkan, menambahkan, merendam, mencampurkan, menyalahkan, mengoles, mengawasi* yang masuk kepada perluasan metafora, selanjutnya *menetapkan, mempekerjakan, dan menulis* masuk ke perluasan metonimi, terakhir *menggores, mengenakan, dan menghentikan* perluasan makna sinekdoke. Selain itu ditemukan juga makna idiomatikal seperti *membatasi, terbiasa, bertengkar, menuduh, lepas tangan, berhati-hati, memandang, mengerjakan, dan melengkapi diri*.

Kata Kunci: Polisemi; Verba; Semantik; Linguistik Kognitif

Abstract

This paper present an analysis of *tsukeru* verb which have multiple meanings and in which the mulitple meanings of a word may be connected or related. While this analysis based on cognitive linguistics. The goal of this analysis is describe basic meaning and another meanings of *tsukeru* verb, and also describe relation of basic meaning and another meanings, and the last present meanings structure of *tsukeru* verb. The analysis using data form Balanced Corpus of Chunagon contemporary Written Japanese corpus presented by National Institute for Japanese Language and Linguistics. Sentence data in this paper based on document, magazine, newspaper, study books, bulletin, and yahoo at 2000-2008. This data clasification using data card (table data). Decription of relation basic meaning and another meanings using cognitive linguistics analysis which is metaphor, metonymy , and synecdoche. The result of this research is *tsukeru* verb have basic meaning is *put on*, and then founded 15 another meanings. Result are follow including metaphor are *give, put, adding, soaking, mix, ignite, spreading, watching*, including metonymy are *decide, hiring, writing*, and the last is including synecdoche are *slash, dress, stop*.

Furthermore, fouded idiom meanings such as *define, common, quarrel, accuse, hands off, be careful, starrng at, doing, acquire*.

Keywords: Polysemy; Verb; Semantics; Cognitive Linguistics

はじめに

本稿では、多くな意味が用いる動詞「つける」の分析を行う。意味分析といえは類義語と多義語という意味がある。類義語は語形が異なり、意味が良く似ている、多義語は一つの語が複数の意味を持っている。同音異義も複数の意味があるが、語と語はもともと別の語で、意味の間に関連性がまったくない。けれども、多義語では、意味の間に関連性がある。

動詞「つける」の意味は以下のように見られる。

- (1) 窓にカーテンを付ける。(小泉, 1996: 324)
- (2) 元気を付ける。(松浦, 2005: 1114)
- (3) 首相に頑健な男たちを護衛として付ける。(小泉, 1996: 325)
- (4) 勝負を付ける。(小泉, 1996: 325)
- (5) 日記をつける。(野間, 1989: 1431)
- (6) 重要人物に護衛を付ける。(小泉, 1996: 325)
- (7) 先生は生徒たちを席に着けた。(小泉, 1996: 326)

- (8) 船頭は船を岸に着けた。(小泉, 1996: 326)
- (9) 機長は制服を身に着けた。(小泉, 1996: 326)
- (10) 顔にクリームをつける。(松浦, 2005: 1115)
- (11) 刑事につけられる。(松浦, 2005: 1114)
- (12) 足を大地に付ける。(小泉, 1996: 324)
- (13) 子供がレコード傷を付けた。(小泉, 1996: 324)
- (14) 足を水につける。(松浦, 2005: 1114)
- (15) テレビをつける。(野間, 1989: 1431)
- (16) 食品に塩をまぶしをつける。(野間, 1989: 1431)

上記の意味を見ると、動詞「つける」は複数の意味があり、またはそれらの意味が関連性を見られているため、多義語であることがわかる。

日本語母語話者なら、これらの意味が直感で使い分けられるが、非日本語母語話者だったら、知識がないと使い分けられない。その知識を得るために、

辞書や教科書が必要である。けれども、現代インドネシアでは十分な考察がなされていないと思われる。例えば、インドネシアでよく使われている辞書には (5) と (8) の意味が取り上げてない、さらに、中級までの教科書にもく電気をつける > くきをつける > くにつくきをつける > しか掲載されていない。となると、説明不足で学習する場合は学者や教師が困難や使いこなせないことを避けられないと思われる。

そのため、本研究では、意味を一つ以上持つ言葉の一つである動詞「つける」の基本義と別儀を記述し、さらにそれらの意味の関連性を明らかにすることを目的とする。その関連性を分析する基準は別儀が見られ、そこには必ず理由があるという認知言語論において記述する。認知言語学論ではメタファー、メタオニミー、シネクドケ、三つの慣用句に基づいて意味の関連性が見られる。このように、さまざまな「つける」の意味の相互の関連を明らかにして、詳細に意味を捉え、「つける」の特徴も見られることが可能となる。

「つける」の意味がどのような関連性があるのかを理解できたら、学習者の誤用が減られるだろう。

以下では、まず 2 節において「つける」の意味を記述している先行研究を取り上げ、検討する。3 節では、基本義と別儀を記述定義を試み、または基本義と転義どのような関連性が用いられるのか、さらに現代日本語書き言葉均衡コーパス通常版からの実例も加えて分析を行う。4 節では、本研究のまとめとして、「つける」の多義語を認知的な定義を記述する。

先行研究

本研究では、辞書類と鈴木 (2000) からの意味記述を取り上げ、その記述内容を検討する。

辞書の記述

ここでは、小泉 (1989) の日本語基本動詞用法辞典・インドネシアで多く利用され、学習者向けの松浦 (2005) の Jepang-Indonesia 大辞典・佐和子 (1989) の日本語大辞典第二版の意味記述を取り上げる。

そのまえに、以下に「つける」の漢字が異なると見られてるが、国広 (1994) によると、同じ音がする語で、漢字が違っても、意味が異なると限らないということを述べている。

『日本語基本動詞用法辞典』 (小泉)

ア. つける「付ける」

- (1) 二つの物を合わせて離れない状態にする。
- (2) ある物・事に別の物・事を(新たに)加える。
- (3) 人をある人のそばを離れないようにさせる。
- (4) 事柄をある状態に落ち着かせる。
- (5) ノートなどに書き込む。
- (6) 人・動物・車などの後をひそかに追う。
- (7) 名前を与える。

三つの意味の中にも様々な意味を持っている。

『Kamus Besar Bahasa Jepang-Indonesia』
(松浦)

1. つける
2. ぬる
3. つける、きる
4. つける、とます
5. つける、
6. つける
7. おう
8. はる
9. あたえる。

イ. つける「着ける」

- (1) 衣服・装身具などを装う。
- (2) 乗り物のある場所に止める、降りられるようにする。
- (3) ある場所を占めさせる。
- (4) 手・足・頭などのある場所に触れさせる

上記に取り上げている意味から見ると、「つける」の意味が九つ分かれている。多くの意味があるため「つける」は多義語であることがわかる。ということがわかるが、記述した意味が不十分ではないと思われる。それは、「書く」<日記をつける>と「決める」<決着をつける>という意味がまだ取り上げられていないことである。

ウ. つける「点ける」

- (1) 火を燃やし始める。
- (2) 電気器具・点火器具・燃焼器具のスイッチを入れて働かせる。

『日本語大辞典 第二版』(野間佐和子・講談社)

上記に取り上げている意味から見ると、「つける」の意味が三つ分かれているということがわかる。または、その

ア. つける「付ける」

- (1) 色・においなど異質なものを付ける着させる。くっつける。

- (2) 二つものを接合して離れない状態にする。 (1) 従うようにさせる。兄弟にする。
- (3) 新たにべつのものでそえる。 (2) 任じる。地位や役にすえる。
- (4) あるものに付随的なものをそえる。 オ. つける「着ける」
- (5) 物の表面などにあと残す。 (1) 乗り物などを移動してある場所に着くようにする。
- (6) 人・車などのあとを追う。尾行する。 (2) 衣服・装身具などを身にまととう。
- (7) 書き留める。書き記す。 (3) 位置を占めさせる。すらわあせる。
- (8) 道・電話などが通じるようにする。
- (9) 注意をする。意識を働かせる。 カ. つける「浸ける」
- (10) 結論を出す。決める。 (1) 水などの液体にひたす。
- (11) 名前・評価などを与える。 キ. つける「漬ける」
- (12) 付き添える。 (1) 食品を塩をまぶしたり、みそなどの中に入れて、味を染み込ませる。漬物にする。
- (13) 知恵・技術・能力などを新たに加えて、より価値を上げる。
- (14) 自分のほうへ荷担させる。

イ. つける「即ける」

- (1) 君主の位に上らせる

ウ. つける「点ける」

- (1) 電気製品のスイッチを入れる。点す。火を燃やし始める。
- (2) 火を燃やしはじめる。

エ. つける「就ける」

ク. つける「付ける」

- (1) その物事を他に与える意を表す。

『日本語大辞典 第二版』のア①と⑤の意味は同じく表面に色・においなど異質なものを付ける着させるためこの二つの意味は一つの意味になれると思われる。

上の記述を見ると、意味区別の長所と短所がみられている。長所としては動詞「つける」の意味が複数で取り上げられている。短所としては、意味の区別には不適切で表示されていない意味もみられている。そのため、意味定義の検討が必要と思われ、より適切な区別の意味が表示することができるだろう。

鈴木 (2000)

鈴木 (2000) は、「つく」という動詞に見られる複数の意味のうち、相対的にスキーマ的であると考えられるいくつかの顕著性の高い意味を抽出し、それらの意味を相互に関係つけることである。また、抽出されたスキーマの意味をさらに細分化、より特定化し、「つく」の用例を網羅的に組み込みその関係の網をより詳細にはりめぐらせていくことができれば、「つく」という動詞の意味のネットワーク構造をその細部に到るまであきらかにすることが目的である。

そのスキーマ的意味の抽出とその関係付けは以下のように取り上げる。

1.1 <ある対象物が><別のある対象物に><物理的に><触れ><そこにとどまる>

1.2 <ある対象物が><別のある対象物に><心理的に><触れ><そこにとどまる>

1.3 <ある対象物が><別のある対象物に><そばに><物理的に><寄り><そこにとどまる>

1-4 <ある対象物が><別のある対象物に><そばに><心理的に><寄り><そこにとどまる>

1.5 <ある対象物が><別のある対象物に><そばに><ある働きをするために><物理的・心理的に><寄り><そこにとどまる>

1.6 <ある対象物が><別のある対象物に><そばに><ある働きをするために><物理的に><触れ><寄り><そこにとどまる>

1.7 <ある対象物が><別のある対象物に><物理的に><触れ><そこにとどまり><影響を及ぼす>

1.8 <ある対象物が><別のある対象物に><心理的に><触れ><そこにとどまり><影響を及ぼす>

1.9 <ある対象物が><別のある対象物へ><物理的に><向かい><そこにとどく>

1.10 <ある対象物が><別のある対象物へ><ある働きをするために><心理的に><向かい><そこにとどき><とどまる>

2.1 <ある対象物に><物理的に><変化が生じた結果><別のある対象物が><そこに現れる>

2.2 <ある対象物に><心理的に><変化が生じた結果><別のある対象物が><そこに現れる>

3.1 <ある対象物に><心理的に><現れる><知覚される>

3.2 <ある状態が><物理的に><現れ><知覚される>

3.3 <ある対象物に><心理的に><現れる><物事が><おさまる>

このように、スキーマ的意味の抽出と関係付けの「つく」が見られて、ほぼ妥当と思われるが、「つく」は「つける」の自動詞ということで、「つける」の意味記述も必要と思われる。または、この研究では多義構造が取り上げられていないことである。

分析の結果

本節では、基本義を記述し、別義を前節に表示されている「つける」の意味を踏まえて新たな定義を試み・または一点ずつの別義を基本義と認知的な関係を分析し、多義構造の図式化を試みる。

「つける」の基本義

「つける」の基本義は「ある物が別のものにぴたりくっつく、離れられない状態」という定義である。

「つける」の別義

辞書記述に踏まえて「つける」の別義以下のようにまとめてみた。与える。

- 2) 置く。
- 3) 決める。
- 4) 動かせる。
- 5) 書く。
- 6) 添える。
- 7) 切り込む。
- 8) 浸す。
- 9) 混ぜる。
- 10) 点す。
- 11) 塗る。
- 12) 監視する。
- 13) 着る。
- 14) 止める。
- 15) 慣用句の意味もある。

「つける」の基本義と別義の関連性

以下に述べている関連性の分析では認知言語学の定義に基づいて記述されている。

基本義：ある物が別のものにぴたりくつつく、離れられない状態

「つける」の基本義は以下の実例から見られている。

- (1) 全体。3同類。一駄 [いちだ] 馬・牛の一頭につける荷物。宿駅の馬につける荷物の定めは、本馬一駄四十貫目、荷

(中納言, 2000: 『基礎古文書のことば』歴史・実著者不明・柏書房)

- (2) 布団カバーにループを片手で布団の上げ下ろしをするときに、はしにループをつけると作業が楽になる。《自助具ガイド》たんすの引き手にヒモをたんすの

(中納言, 2000: 『もう脳卒中なんか恐くない』自然科学・実著者不明・みずうみ書房)

「つける」の基本義は「ある物に別の物をぴたりくつつく、つけること、離れられない状態」である。上の実例をみると、「馬・牛に荷物をぴたりくつついて、つけるこ

と」、または「はしのループをぴたりくつついて、つけること」が分かっている。

これから、このような基本義を従って、別義にどのような関連性が用いられるかを分析を行う。

別義(1)：与える

- (3) 感ずることができました。今、日本で言われている「生きる力」をつけるということは、本当はこのようなことなのではないでしょうか。世界

(中納言, 2000: 『教師をめざす若者たち』社会科学・大橋 功・プレジデント社)

- (4) タブをクリックする#5 [サイト名] に2で削除したサイトと同じ名前をつける#6

[OK] ボタンをクリックする#7 [閉じる] ボタンをクリックする#はみだしコラム#警告：

(中納言, 2003: 『はじめてのホームページビルダー7』分類なし・西 真由・秀和システム)

上の実例では、「つける」は「与える」という意味が用いられることが分かる。「ある物に別の物をぴたりくつつく」という「つける」の基本義に基づいて、例では（「身」に「生きる力」をつける）ということは「身に生きる力を与える」または、（「サイト」に「名前」をつける）ということは「サイトに名前を与える」と思われる。「ある物が別のものにぴたりくつつく、離れられない状態」と「与える」動作から見ると、類似性が用いられるため、「つける」の別義にメタファーの関連が見られる。

別義(2) : 置く

(5) 上のことはすべて三公に責任を持たせて、功臣を行政官の地位につけることはなかったから、諸将は、いずれも名誉をまっとうして一生を終えること

(中納言, 2000: 『十八史略』 歴史・曾 先之・徳間書店)

(6) だという理由でペイオフの対象からはずれることはありませんが、優先順位をつける

きに、満期がまだ先の預金からカットされるわけです。ここに注目！

(中納言, 2002: 『いちばんわかりやすいペイオフ 100 問 100 答』 社会科学・海江田 万里・アーク出版)

上の実例では、「つける」は「置く」という意味が用いられることが分かる。「ある物に別の物をぴたりくつつく」という「つける」の基本義に基づいて、例では（「功臣」に「地位」につける）ということは「功臣に地位に置く」または、（「ペイオフ」に「優先順位」をつける）ということは「ペイオフに優先順位を置く」と思われる。「ある物が別のものにぴたりくつつく、離れられない状態」と「置く」動作から見ると、類似性が用いられるため、「つける」の別義にメタファーの関連が見られる。

別義(3) : 決める

(7) 見当たらないとされていました。そこで、解釈上の問題に決着をつけるうえでも、成年

後見人にならって、法人も成年後見監督人になること
(中納言, 2000: 『Q&A 成年後見制度解説』社会科学・前田 裕司・三省堂)

ける」の別義に 近接関係があるため、メトニミーの関連であると思われる。

別義(4) : 働かせる

(8) と思う」 「…」 まあ、この男も色々と怪しげな解説をつけるものだ。奈々は呆れつつも、話を戻す。

「中納言, 2000: あと一辻名さんの (『QED』文学・高田 崇史・講談社)

上の実例では、「つける」は「決める」という意味が用いられることが分かる。「ある物に別の物をぴたりくつつく」という「つける」の基本義に基づいて、例では(「問題」に「決着」をつける)ということは「問題に対しての決着を決める」または、「この男が」が「解説」をつける)ということは「この男解説をきめる」と思われる。「決める」の意味では、「つける」だけでなく、動作から見ると、「決着」「解説」を「問題」「この男」につければ、(決着と解決決められる)というわけである。そのため、これらに「つ

(9) を行い、本人にも意見を述べる機会を与えて、最終的に後見人をつけるべきかどうかが決めます。鑑定を行うに当たっては、鑑定費用を

(中納言, 2001: 『現場の成年後見 Q&A』社会科学・池原 毅和・有斐閣)

(10) する準備を整えておけばよい。そう考えて呂布は兵を城門の警備につける。だが、兵が警備につくより早く、軍が帰城したどさくさに

(中納言, 2001: 『三国演義』文学・安能 務・講談社)

上の実例では、「つける」は「働かせる」という意味が用いられることが分かる。「ある物に別の物をぴたりくつつく」という「つける」の基本義に基づいて、例では(「ある機関」に「後見人」をつける)ということは「ある機関で後見人を働か

せる」または、「城門」に「警備」をつける)ということ
は「城で警備を働かせる」と思
われる。この分析では、「後見
人」「警備」に「役わり」をつ
け、「ある機関」「城門」では
たらかせてもらおうと考えられる。
つまり、「つける」は「方法」、
「役わりを与える」は「目的」
となると、これらの関連はメト
ニミーである。

別義(5) : 書く

(11) 自分自身の実践の正当性を疑
問視しないことである。彼は
日記をつけることを一時的に、

さらには決定的に止めるかも
しれない。しかし、だ

(中納言, 2000: 『友愛の歴
史社会学』社会科学・葛山
泰央・岩波書店)

(12) 確立することです。先に紹
介した自分のための「エネル
ギーノート」をつけるのも一
つの方法です。「私は語学
ができないから」「時間

(中納言, 2002: 『女の運命
を動かす 100 の方法』哲学・
浅野 裕子・三笠書房)

上の実例では、「つける」は
「書く」という意味が用いられる
ことが分かる。「ある物に別の物
をぴたりくつつく」という「つけ
る」の基本義に基づいて、例では
(「日記」に「書くもの」をつけ
る)ということは「日記に書くも
のを近づけさせて、書く」または、
(「エネルギーノート」に「書く
もの」をつける)ということは
「エネルギーノートに書くものを近
づけさせて、書く」と考えられる。

「書く」 動作から見ると、「つ
ける」は「方法」、「書く」は
「目的」、いわゆる、この別義で
は、メトニミーの関連が見られる。

別義(6) : 添える

(13) を使用しても一日に一回、一
杯だけです。毎食みそ汁をつ
けるとどうしても塩分をとり
すぎになります。高血圧食で
すとその程度

(中納言, 2000: 『高齢者の介
護とスキンケア』自然科学・
伊崎 誠一・丸善)

(14) 3 : 塩 1 の割合で混ぜる。肉、
魚、野菜の揚げもの、春巻き

などにつけるとおいしので、
常備すると何かと重宝。●椒
塩八頭は、普通
(中納言, 2000: 『アジアのお
母さんの味』 技術・工学・分
担不明・日本放送出版協会)

上の実例では、「つける」は
「添える」という意味が用いられ
ることが分かる。「ある物に別の
物をぴたりくつつく」という「つ
ける」の基本義に基づいて、例で
は（「食べ物」に「みそ汁」をつ
ける）ということは「食べ物にみ
そ汁を添える」または、（「春巻
き」に「肉、魚、野菜の揚げ物」
をつける）ということは「春巻き
に肉、魚、野菜の揚げ物を添える」
と考えられる。「ある物が別のも
のにぴたりくつつく、離れられな
い状態」と「添える」動作から
見ると、類似性が用いられるため、
「つける」の別義にメタファーの
関連が見られる。

別義(7) : 切り込む

(15) 考えていただければわかるよ
うに非常に不愉快な、しかも
感染や尿道に傷をつける可能

性のある方法です。最近はこの
副作用の予防のために、メ
スナと

(中納言, 2000: 『むしばまれ
る医療』 自然科学・秋山 秀
樹・日本評論社)

(16) はないの? 「お母さんが
絶対だめだって。体に傷をつ
けるの良くないから。西洋医
学のやり方は、極端すぎるし
ね」 彼女の

(中納言, 2003: 『中国洗面器
ご飯』 社会科学・一条 さゆ
り・講談社)

上の実例では、「つける」は
「切り込む」という意味が用いら
れることが分かる。「ある物に別
の物をぴたりくつつく」という
「つける」の基本義に基づいて、
例では（「尿道」に「傷」につけ
る）ということは「尿道に傷を切
り込む」または、（「体」に「傷」
をつける）ということは「体に傷
を切り込む」と思われる。「ある
物が別のものにぴたりくつつく、
離れられない状態」は「全体」を
表す動作だが、「切り込む」は
「部分」表す動作を示している。

そのため、「つける」の別義にシ
ネクドキの関連が見られる。

別義(8) : 浸す

(17) ます。★酢水は、水1カップ
に酢大さじ2の見当。長芋を
酢水につけるのは、そのまま
だと粘りが出て扱いにくい
ためです。器3点

(中納言, 2000: 『夏おかずレ
シピ150』技術・工学・小川
圭子・グラフ社)

(18) 網目の内側や隅のほうまでし
っかり洗い、よく洗い流す塩
素系漂白剤に1時間つける。
これより短い時間だと、カビ
の胞子が死滅しないこともあ
るので

(中納言, 2000: 『最強のお掃
除テキスト』技術・工学・城
石 眞紀子・扶桑社)

上の実例では、「つける」は
「浸す」という意味が用いられる
ことが分かる。「ある物に別の物
をびたりくっつく」という「つけ
る」の基本義に基づいて、例では
(「長芋」に「酢水」をつける)
ということは「長芋を酢水に浸す」

または、「洗濯物」に「塩素系
漂白剤」をつける)ということは
「洗濯物を塩素系漂白剤に浸す」
と思われる。「ある物が別のもの
にびたりくっつく、離れられない
状態」と「浸す」動作から見ると、
類似性が用いられるため、
「つける」の別義にメタファーの
関連が見られる。

別義(9) : 混ぜる

(19) 肉に薄力粉をまぶし、溶きほ
ぐした卵液をくぐらせ、香草
パン粉をしっかりと つける。
3 フライパンにオリーブ油
とバターを熱して、油をかけ
ながら焼く。

(中納言, 2000: 『宇土巻子の
ハーブクッキング』技術・工
学・宇土 卷子・講談社)

(20) を作る。椎茸は布巾で拭いて
石づきを切り、笠裏に薄く小
麦粉をつける。芝海老は背ワ
タを取って殻をむき、庖丁で
叩いてからあたり鉢であたり、
(中納言, 2001: 『居酒屋の人
気の和風料理』技術・工学・
志の島 忠・旭屋出版)

上の実例では、「つける」は「混ぜる」という意味が用いられることが分かる。「ある物に別の物をぴたりくつつく」という「つける」の基本義に基づいて、例では（「生地」に「パン粉」をつける）ということは「生地にパン粉を入れて混ぜる」または、（「椎茸」に「小麦粉」をつける）ということは「椎茸に小麦粉を入れて混ぜる」と思われる。「ある物が別のものにぴたりくつつく、離れられない状態」と「混ぜる」動作から見ると、類似性が用いられるため、「つける」の別義にメタファーの関連が見られる。

別義(10) : 点す

(21) から、またソープに行ってしまった。そこを出てから、部屋の明かりをつけるのはまずいだろう、とふと考えて、法外に高いのはわかっているのに

(中納言, 2000: 『フリージア』
文学・東 直己・角川春樹事務所)

(22) に一回は目をさまして、悪口雑言をならべたあげく、タバ

コに火をつける。膀胱の病気持ちの男は、一晩に六回くらい起きて、大きな音

(中納言, 2001: 『パリ・ロンドン放浪記』文学・ジョージ・オーウェル・岩波書店)

上の実例では、「つける」は「点す」という意味が用いられることが分かる。「ある物に別の物をぴたりくつつく」という「つける」の基本義に基づいて、例では（「明かり」をつける）ということは「明かりに電気を点す」または、（「タバコ」に「火」をつける）ということは「タバコに火を点す」と思われる。「ある物が別のものにぴたりくつつく、離れられない状態」と「点す」動作から見ると、類似性が用いられるため、「つける」の別義にメタファーの関連が見られる。

別義 (11) : 塗る

(23) カサカサになってしまうのですがそれを防ぐ方法はありませんか？ファンデーションをつけるとどうしても目立って

しまうので…私は、オルビス
をつかっています

(中納言, 2005: 『Yahoo!知恵
袋』健康、美容とファッショ
ン/コスメ、美容/コスメ、美
容・Yahoo!)

ぴたりくっつく、離れられない状
態」と「塗る」 動作から見ると、
類似性が用いられるため、「つけ
る」の別義にメタファーの関連が
見られる。

別義(12) : 監視する

(24) 性はアルビオンですね。ただ
アルビオンは乳液を先につけ
て、化粧水を次につけるとう
特質なものですので乳液をつ
けなきゃあまり効果がないみ
たいです。

(中納言, 2005: 『Yahoo!知恵
袋』健康、美容とファッショ
ン/コスメ、美容/コスメ、化
粧品・Yahoo!)

(25) あなた一人だけで行動はさせ
ません。#必ず誰か警察官を
あなたにつけるよう、こちら
から要求します。#しかも、
あなたの周りは、何十もの捜
査

(中納言, 2001: 『爆弾魔』文
学・大石 直紀・光文社)

(26) 兇悪事件に匹敵する態勢で捜
査に乗り出すだろう。#娘に
二十四時間の警護をつける一
方、相手の男性の身边を徹底
的に調べ上げ、多少やましい
点でもみつかったら

(中納言, 2001: 『日本封印』
文学・杉山 隆男・小学館)

上の実例では、「つける」は
「塗る」という意味が用いられる
ことが分かる。「ある物に別の物
をぴたりくっつく」という「つけ
る」の基本義に基づいて、例では
(「顔」に「ファンデーション」
をつける)ということは「顔にフ
ァンデーションを塗る」または、
(「顔」に「乳液」をつける)と
いうことは「顔に乳液を塗る」と
思われる。「ある物が別のものに

上の実例では、「つける」は
「監視する」という意味が用いら
れることが分かる。「ある物に別
の物をぴたりくっつく」という

「つける」の基本義に基づいて、例では（「あなた」に「警察官」につける）ということは「あなたを警察官に監視する」または、（「娘」に「警護」をつける）ということは「娘を警護に監視する」と思われる。「ある物が別のものにびたりくっつく、離れられない状態」と「監視する」動作から見ると、類似性が用いられるため、「つける」の別義にメタファーの関連が見られる。

別義(15) : 着る

(27) 機長は制服を身に着けた。
(小泉, 1996: 326)

上の実例では、「つける」は「着る」という意味が用いられることが分かる。「ある物に別の物をびたりくっつく」という「つける」の基本義に基づいて、例では（「機長」に「制服」を「身」につける）ということは「機長の体に制服を着る」と思われる。「着る」動作から見ると、つけるだけではなく、「つける」は「全体」

の動作、「着る」は「部分」の動作と考えられるため、この別義にシネクドキの関連が見られる。

別義(14) : 止める

(28) 運転集は車を駅の正面に着けた。

(小泉, 1996: 326)

(29) 船頭は船を岸に着けた。

(小泉, 1996: 326)

E-ISSN 2528-5548

上の実例では、「つける」は「止める」という意味が用いられることが分かる。「ある物に別の物をびたりくっつく」という「つける」の基本義に基づいて、例では（「駅の正面」に「車」をつける）ということは「車は駅の正面に止める」または、（「岸」に「船」をつける）ということは「船は岸に止める」と思われる。「止める」動作から見ると、あるものをつけて、その後とめること。ここでは、全体的の意味から、部分的の意味を表しているため、シネクドキの関連が見られる。

上記に記述した関連性は、以下の欄にまとめる。

基本義	メトニミー	シネクキ	メタファー
1. ある物が別のものにぴたりくっつく、離れられない状態	4. 決める	8. 切り込む	2. 与える
	5. 働かせる	14. 着る	3. 置く
	6. 書く	15. 止める	7. 添える
	16. 慣用の意義		9. 浸す
			10. 混ぜる
			11. 点す
			12. 塗る
			13. 監視する
			16. 慣用の意義

終わりに

これまでの考察で明らかになった「つける」の意味は、以下の通りである。

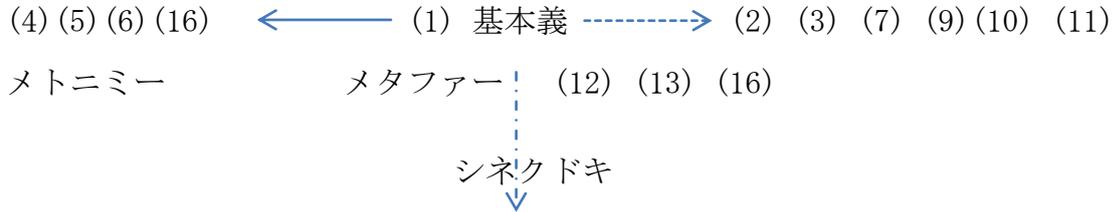
- 「つける」の基本義は「ある物が別のものにぴたりくっつく」、離れられない状態」という定義である。
- 「つける」の別義は
 - (1) 与える
 - (2) 置く

- (3) 決める
- (4) 働かせる
- (5) 書く
- (6) 添える
- (7) 切り込む
- (8) 浸す
- (9) 混ぜる
- (10) 点す
- (11) 塗る
- (12) 監視する
- (13) 着る

(14) 止める

(15) 慣用句の意義もある

「つける」の基本義と別義の関連性は、
図式化すると以下のようなになる。



1. ある物が別のものにぴたりく
つつく、離れられない状態

2. 与える

3. 置く

4. 決める

5. 働かせる

6. 書く

7. 添える

8. 切り込む

9. 浸す

10. 混ぜる

11. 点す

12. 塗る

13. 監視する

14. 着る

15. 止める

16. 慣用句の意義

上記のの図式を説明すると、①「ある物が別のものにぴたりくつつく、離れられない状態」は基本義で、または、メタファーとしての別義は②「与える」③「置く」⑦「添える」⑨「浸す」⑩「混ぜる」⑪「点す」⑫「塗る」⑬「監視する」慣用の意義」、それにメトニミーとしての

別義は④「決める」⑤「働かせる」⑥「書く」⑯「慣用句の意義」、最後はシネクドキとしての別義は⑧「切り込む」⑭「着る」⑮「止める」ということがわかった。

参考文献

- [1] 秋元美晴 (2010) 『日本語教育能力
検定試験に合するための語彙 1 2』
アルク
- [2] 小泉保 (1989) 『日本語基本動詞
用法辞典』大修館書店
- [3] 鈴木智美 (2000) 『多義語「ツク」
(付・着・就・即・憑・点) の意味
分析—そのスキーマ的意味の抽出と
関係付け—』留学生日本語教育セン
ター論集 27:79~92, 2001
- [4] 野間佐和子 (1989) 『日本語大辞典
第二版、』講談社
- [5] Chaer, Abdul (2012). *Linguistik Umum*.
Jakarta: Rineka Citpa
- [6] Kamus Besar Bahasa Indonesia (2008)
Jakarta: PT Gramedia Pustaka Utama
- [7] Matsuura, Kenji (2005) *Kamus Jepang
– Indonesia*. Jakarta: PT Gramedia
Pustaka Utama
- [8] Moleong, Lexy (2010) *Metodologi
Penelitian Kualitatif*. Bandung: PT
Remaja Rosdakarya
- [9] Sudjianto & Dahidi, Ahmad (2009)
Pengantar Linguistik Bahasa Jepang.
Bekasi Timur: Kesaint Blanc
- [10] Sutedi, Dedi (2011, terbitan ke-2),
*Penelitian Pendidikan Bahasa
Jepang*, Bandung: Humaniora
- [11] _____(2011), *Dasar-Dasar
Linguistik Bahasa Jepang*, Bandung:
Humaniora
- [12] _____ (2001), *Analisis makna
verba Agaru dan Noboru*, Jepang
Tengah: FUSII Nomor 8
- [13] _____ (2015), *Kalimat Pasif
Bahasa Jepang*. Bandung: Humaniora
- [14] Homepage Korpus: [http://
https://chunagon.ninjal.ac.jp](http://https://chunagon.ninjal.ac.jp)
(chunagon-privateusers)

E-ISSN 2528-5548